

13-5 予測

1 予測の基本的な手法

予測は、保全対象の分布、生息状況、現存量及び予定されている対象事業計画の内容等を踏まえ、保全対象が対象事業の実施に伴って受ける分布又は生息環境の改変の影響の程度を推定する（表13-8、9参照）。

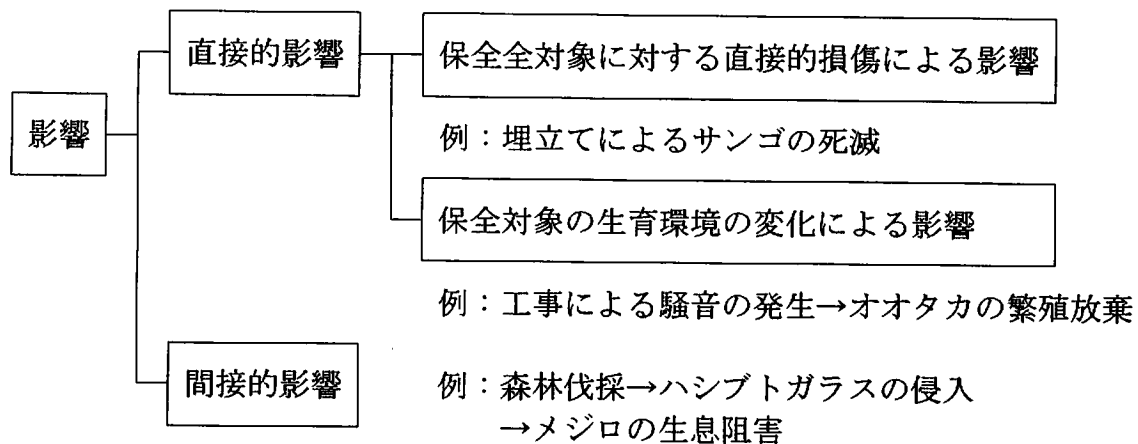
分布又は生息環境の改変の程度は、現況調査を実施した植生、地形、土壌等生息環境の変化の内容、規模及びその程度とする。

表13-8 影響の種類例

区分	影響の種類例
<p>個体</p>	<p>直接的損傷による</p> <ul style="list-style-type: none"> — 死滅 — 当該地からの逃避 — 生息阻害 <p>生息環境状況の変化による (採餌、営巣、移動条件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 生息阻害 (結果として生じる死滅を含む。) — 繁殖阻害
<p>個体群</p>	<p>直接的損傷による</p> <ul style="list-style-type: none"> — 死滅 — 当該地からの逃避 — 構成メンバー数の減少 — 維持・更新阻害 <p>生息環境状況の変化による (採餌、営巣、移動条件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 行動圏域の減少 (結果として生じる死滅を含む。) — 構成メンバー数の減少 — 当該地からの逃避 — 維持・更新阻害
<p>生息地 (群集)</p>	<p>直接的損傷による</p> <ul style="list-style-type: none"> — 消滅(死滅) — 当該地からの逃避 — 構成メンバー数の減少 — 維持・更新阻害 — 種構成の変化 <p>生息環境状況の変化による (採餌、営巣、移動条件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> — 分布域・構成メンバー数の減少(結果として生じる死滅を含む。) — 当該地からの逃避 — 維持・更新阻害 — 種構成の変化

注 「更新阻害」とは、個体群構成メンバーの死滅、生息阻害又は繁殖阻害の結果として生じるものである。

表13-9 影響の種類に応じた予測方法



注1 「直接的損傷」については、保全対象となる動物個体、動物種及び生息地（群集）の生息地又は範囲を地形図上に図示し、図上計測によって直接改変を受ける面積を測定するとともに、改変面積等の改変量が保全対象又はその生息域全体に占める割合、それによる保全対象の損傷の程度（減少する構成メンバー数等）、保全対象の質的変化の程度と内容等について検討する。

2 「生息環境条件の変化による影響」については、保全対象となる動物個体、動物種及び生息地（群集）の生息を規定している環境要因（採餌地面積、水温、日照条件等）や動物の生息に支障を及ぼす阻害要因（渇水、騒音等）を推定し、各要因の量的・質的変化を予測した上で、類似の影響事例や既存知見からの類推、実験調査（室内又は野外）又はシュミレーション等によって、環境要因や阻害要因の変化が保全対象に及ぼす変化について検討する。

(1) 工事の実施

工事の実施に伴う影響については、現況調査により作成した動物の分布図と対象事業により発生する濁水、騒音、振動等の予測結果を基に、生息環境の変化の内容、箇所及び程度について、類似事例の引用、解析又は学識経験者等の専門家の意見を参考に予測する。

類似事例を参照する場合には、類似事例についての概要、解析結果及び対象事業に応用できる理由等を明らかにするものとする。

(2) 土地又は工作物の存在及び供用

土地又は工作物の存在による影響については、工作物等の具体的内容と重要な種等の分布との重ね合わせにより、生息地及び移動経路の消失、縮小、分断、生息環境の変化について予測する。施設の供用による影響については、大気、水質、騒音等の予測結果を基に、生息環境の変化の内容について予測する。必要に応じて類似事例の引用、解析又は学識経験者等の専門家の意見を参考に予測する。

類似事例を参照する場合には、類似事例についての概要、解析結果及び対象事業に応用できる理由等を明らかにするものとする。

2 予測地域

予測地域は、調査地域に準じる。